

「自己の生き方を考え、 主体的に学ぶ生徒の育成」

～豊かな心を育み、確かな学力が身に付く
授業展開の工夫を通して～

I 教育概要

- 1 学校教育目標と経営方針
- 2 本年度の努力点と達成のための重点施策
- 3 生徒数
- 4 職員組織

III 基本的な考え方

- 1 「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒」とは
- 2 「豊かな心」とは
- 3 「確かな学力」とは

II 研修の概要

- 1 研修主題
- 2 研修主題設定の理由
- 3 研修のねらい
- 4 研修内容・方法
- 5 研修組織
- 6 研修の経過

IV 実践の内容

- 1 道徳教育推進部会
- 2 教科指導改善部会

IV 研修のまとめと今後の課題

- 1 研修のまとめ
- 2 今後の課題



片品村立片品中学校

I 教育概要

1 学校教育目標と経営方針

- (1) 基本目標
心身ともに健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成
- (2) 具体目標
「確かな学力、豊かな心、強い体力」を求め、気づき、考え、実行できる生徒の育成
- (3) 経営方針
 - ① 師弟同行・率先垂範・凡事徹底の精神を基に、職員が組織的に協働することにより、教育目標の達成に努める。
 - ② 生徒同士や生徒と教師の人間関係、信頼関係の確立に努める。
 - ③ 生徒に確かな学力と豊かな心を育む。
 - ④ 家庭や地域との連携を深め、それぞれの教育力を生かした教育活動の充実を図る。

2 本年度の努力点と達成のための重点施策

- (1) 学年・学級経営、生徒指導の充実（社会性、自主性・自律心の向上）
 - ・信頼関係を基盤とした、節度と温かさ・生徒一人一人に心の居場所と出番のある学年・学級づくり
 - ・諸活動におけるふれあいを通じた多面的な生徒理解と共通理解に基づく積極的な生徒指導の推進
 - ・チャンス相談の活用及びスクールカウンセラーや関係機関との連携の充実
- (2) 授業の改善と充実（基礎学力の向上、豊かな心の育成）
 - ・授業のねらいと手立て・評価項目を明確にした授業、楽しく学び・身に付く授業の実践
 - ・指導の工夫・改善による基礎的・基本的知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上
 - ・校内研修や自己研鑽を通じた教員の指導力の向上
 - ・道徳の時間の指導の充実と体験的な活動等を通じた、豊かな心の育成
- (3) 教育環境の充実（潤いのある物心両面の環境整備）
 - ・生徒の人権・人格を尊重する言語環境の徹底（認め、励まし、意欲を高める言葉かけ）
 - ・生徒と教師が一体となった美化活動や奉仕活動の推進
 - ・家庭・地域との連携・交流による落ち着いた環境づくり
- (4) 学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）
 - ・積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
 - ・尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の効果的推進
- (5) 安全・危機管理の徹底（安心・安全な学校生活の保障）
 - ・交通事故や生活事故の防止（日常的・計画的な安全指導の継続、安全点検の徹底と迅速な処置）
 - ・いじめはしない、させない、許さないという意識と態度の徹底（人権意識の高揚）
 - ・生徒に危険予測・回避能力をつけさせるための安全教育の推進

3 生徒数

学 年	1 年		2 年		3 年		3 組	合 計	
	1 組	2 組	1 組	2 組	1 組	2 組			
生 徒 数	男	1 2	1 2	1 4	1 5	1 4	1 4	3	8 4
	女	1 5	1 4	1 3	1 3	1 0	1 0	0	7 5
	小 計	2 7	2 6	2 7	2 8	2 4	2 4	3	
計	5 3		5 5		4 8		3	1 5 9	

4 職員組織

職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当
校長	平賀 信夫	経営管理	教諭	馬場 英行	2年主任	非常勤	青木 真美	家庭科
教頭	林 和高	企画運営	教諭	吉田 翔一	2年1組	非常勤	千明 早紀	音楽科
事務長	林 一彦	学校事務	教諭	會田 華恵	2年2組	介助員	田中智恵子	特別支援
教諭	尾崎 和子	教務主任	教諭	須田 秀昭	3年主任	S C	高桑 靖雄	教育相談
教諭	吉野 繁夫	1年主任	教諭	高橋 宏輔	3年1組	ALT	BrianThomas	英語指導助手
教諭	高山 誠	1年1組	教諭	阿部 明麿	3年2組	公仕	須藤 松子	環境美化
教諭	瀧澤 裕志	1年2組	育休補	佐伯 悠	3年副担	公仕	千明 太郎	環境整備
教諭	野上 和栄	3組担任	養護教諭	真船由美子	保 健			
教諭	安藤 千雨	1年副担	非常勤	金子 友美	美術科			

Ⅱ 研修の概要

- 1 研修主題 「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」
～豊かな心を育み、確かな学力が身に付く授業展開の工夫を通して～

2 研修主題設定の理由

今年度の校内研修については、昨年度の成果と課題を踏まえ、研修主題を「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」、副主題を「～豊かな心を育み、確かな学力が身に付く授業展開の工夫を通して～」として取り組むこととした。

昨年度の研修で得られた成果等を活用し、さらに充実した研修が進められるようにしたいと考えている。

課題としては、主体的な学びを促すための発問の工夫や、ねらいを達成するための手だてなど、指導法の工夫・改善にさらに努めること、道徳的実践力をより高めるために日常的な指導や行事と関連させた道徳指導の工夫に心がけることが挙げられている。

本校の生徒は、とても純朴で、明るく落ち着いた学校生活を送っている。毎日の清掃活動では、少ない人数で、広い掃除分担区を一生懸命行い、その取組はとても真面目である。与えられた課題は誠意をもって成し遂げられる生徒達である。学習面においても同様で、ほとんどの生徒が宿題を忘れることなく提出できる。しかし、自ら考え、新しいことを何か始めたり、計画立てて家庭学習を進めたりすることが苦手な傾向にある。

本校の学校目標は「心身ともに健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成」である。豊かな心を育み、確かな学力が身に付く授業展開を工夫することを通して、自ら自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒を育成しようとする本研修の主題・副主題は本校の教育目標を達成する上で、とても大切な研修となるものと考えられる。さらに、本校の3つの具体目標の中の2つである「確かな学力」と「豊かな心」を追求する上でも、道徳指導と教科指導の2つの研修を進めていくことは直接的に関連する研修である。

3 研修のねらい

豊かな心を育むための道徳指導や、確かな学力を身に付ける教科指導の授業展開を工夫することにより、生徒自らが自分自身の生き方を考え、主体的に学ぼうとする生徒を育成する。

4 研修内容・方法

一人一授業の研究授業を行い、参観の方法や授業研究会の持ち方を工夫しながら研修が深まるようにしていくことを基本として、以下の内容について取り組み、研修に深まりがもてるようにする。

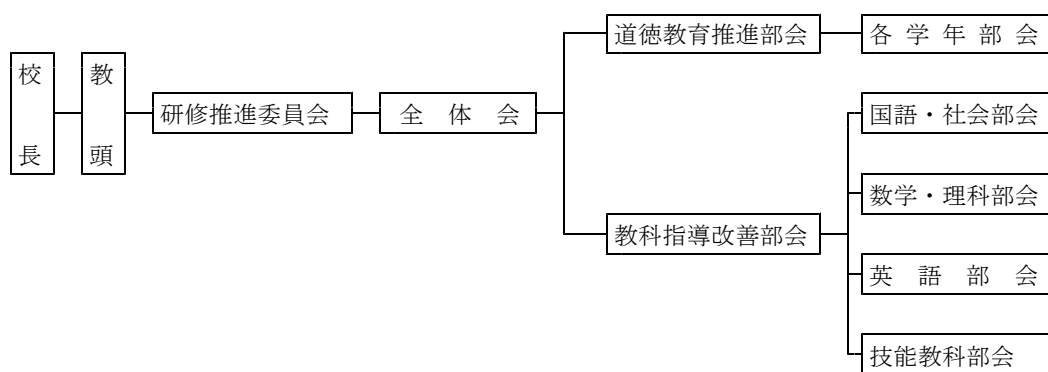
○研修主題、副主題がもつ意味の共通理解を図るために、①「自己の生き方を考え、

- 主体的に学ぶ生徒」 ②「豊かな心」 ③「確かな学力」の用語の捉え方を話し合う。
- 教科指導や道徳指導における、現在の生徒の実態を的確に把握するとともに、「めざす生徒像」を明確にし、研修主題に迫るための「具体的な授業展開の工夫」を教科ごとに立て、常に意識しながら日々の実践に取り組めるようにする。
 - 教科指導においては、授業のねらいと手だての評価項目を明確にした授業づくりや、主体的に学ぼうとする態度、互いに高め合おうとする態度を育てるための指導法の工夫・改善の在り方を明確にする。
 - 道徳指導においては、道徳性検査の分析を行い、生徒の豊かな心を育むための発問や資料提示の仕方を工夫するとともに、効果的な教材の開発に努める。さらに、道徳教材（DVDなど）の一覧表の作成と、その活用例をまとめた指導案集を作成し活用できるようにする。

5 研修組織

組 織	構 成 員	研修推進上の役割や主な研修内容
研修推進委員会	学校長，教頭，教務主任 研修主任，道徳教育推進部会長 教科指導改善部会長	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化等
全体会	全職員	○研修内容の確認
道徳教育推進部会	☆野上，瀧澤，吉田，會田 高橋，阿部	○道徳性検査の分析を行い，重点化した指導計画の作成 ○1単位時間の道徳指導案の蓄積 ○DVD資料の整理・保管
教科指導改善部会	☆高山，安藤，吉野，尾崎， 馬場，須田，佐伯	○学力検査の分析 ○授業実施計画の作成 ○授業研究会の資料づくりと司会進行
学 年 部 会	各学年所属職員	○道徳の授業改善の推進
国語・社会部会	馬場，高橋，尾崎	○教科の授業改善の推進
数学・理科部会	吉田，吉野，須田，野上	
英 語 部 会	高山，會田，佐伯	
技能教科部会	安藤，阿部，真船	

【研修組織図】



6 研修の経過 は指導案検討 は研究授業・授業検討会

は校内研修 ○は部会研修 ※その他の研修

月日	内 容	研 修 の 視 点
4. 12	<input type="checkbox"/> 1 本年度の研修について	・前年度の引き継ぎ事項の確認
5. 10	<input type="checkbox"/> 2 研修主題・副主題の共通理解 ①組織作り	・用語に関する共通理解 ・指導案の形式 ・各部会の組織作りと研修内容の決定
5. 24	<input type="checkbox"/> 3 指導主事訪問Aに向けて ②部会研修の研修計画の確認 N R Tの結果分析	・提出用研修計画書の検討と最終確認 ・各部会の研修計画案の見直しと共通理解 ・生徒の学力の実態把握と分析
5. 26	指導主事要請訪問A	・研修内容に基づく授業実践 ・研修についての助言と研修の方向性の見直し
6. 28	<input type="checkbox"/> 4 A訪問の指導・助言の確認 ③N R Tの結果と指導法の改善	・研修の方向性の修正 ・生徒の学力の実態に応じた指導法の改善
6. 4	授-理科(須田教諭)	・研修内容に基づく研究授業・授業検討会
6. 16	授-英語(高山教諭)	
7. 12	<input type="checkbox"/> 5 研修経過の確認と次学期への取組 ④部会の研修経過の確認と次学期の計画	・次学期への研修意欲を喚起 ・研修内容に基づく研究授業・授業検討会
7. 13	授-数学(吉野教諭)	
9. 10	<input type="checkbox"/> 7 指B訪問に向けて⑤部会研修の推進	・B訪指導案検討 ・道徳の指導案の作成
9. 8	授-音楽(安藤教諭)	・研修内容に基づく研究授業
9. 27	授-数学(吉田教諭)	・授業 検討会
9. 30	授-道徳(會田教諭)	
10. 4	<input type="checkbox"/> 8 指B訪問の資料作り ⑥部会の研修経過の確認	・研修経過報告書の確認 ・B訪指導案検討 ・参観の視点の確認 ・部会別の質問事項の確認
10. 13	B訪問前日準備	
10. 14	指導主事要請訪問B 授-道徳(瀧澤教諭)	・研修の修正と、まとめまでの最終確認
10. 19	授-英語(佐伯教諭)	・部会別の質問事項の確認
10. 22	授-国語(高橋教諭)	・研修内容に基づく研究授業
10. 25	授-国語(尾崎教諭)	・授業検討会
	<input type="checkbox"/> 9 ⑦B訪問の指導助言の確認	・全体研修、部会研修の修正
11. 9	県へき地教育研究大会 2 授業公開 授-社会(馬場)授-理科(野上)	・研修内容に基づく 授業実践 ・研修経過に沿った研修主題
11. 15	<input type="checkbox"/> 10 ⑧研修主題・副主題の修正	・副主題の見直し
11. 29	<input type="checkbox"/> 11 全体研修のまとめ ⑨部会研修のまとめ	・研修内容に基づく研究授業 ・授業検討会 ・実践してきた全体、部会研修のまとめの確認
12. 13	紀要「校内研修の歩み」、 <input type="checkbox"/> 12 ⑩「片品の教育」について	・紀要や研究物の作成確認と分担
1. 24	<input type="checkbox"/> 13 ⑪紀要原稿の作成 年間指導計画作成	・紀要原稿と次年度の年間指導計画の作成
1. 25	授-保体(阿部教諭)	
2. 7	<input type="checkbox"/> 14 紀要原稿の検討	・本年度の研修の成果と課題を確認
2. 21	<input type="checkbox"/> 15 ⑫本年度のまとめ、来年度の研修の検討 C R Tの結果分析	・来年度の研修の方向性について検討 ・C R Tの結果分析と活用
3. 14	<input type="checkbox"/> 16 引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 ・本年度のまとめ

	区 分	講 師	内 容
6. 28	保健指導研修	外部講師(東消防署員)	・心肺蘇生法(A E D操作)の講習
9. 6	<input type="checkbox"/> 6 講演会	外部講師(利根教育事務所 登坂指導主事)	・豊かな心と確かな学力が身に付く授業

Ⅲ 基本的な考え方

1 「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒」とは

毎日の授業において、生徒一人一人が、自分の将来について、夢や目標をもち、それを実現させようという向上心をもって、仲間と共に生き生きとした目をしながら学習することは教師として願う姿である。本研修を通して、生徒一人一人が自らの意志と責任で自己の生き方や進路を選択決定し、自己実現に向けて自ら学ぶことができるようにしたい。

本研修主題の「自己の生き方を考える生徒」とは、自ら自分自身を見つめ、自分のよさを自覚し、そのよさを生かした進路選択ができる生徒ととらえる。また、「主体的に学ぶ生徒」とは下のようにとらえる。

- ①自分の力で課題を解決できる生徒
- ②自分の力で追求し、完成しようとする意欲と根気強さを持つ生徒
- ③自分の考えを持ち、はっきりと表現できる生徒
- ④相手の考えをしっかりと聞くことができる生徒
- ⑤夢を持ち、積極的に自分を生かす生徒

生徒が疑問に対して「解決したい」という意欲をもったとき、学習の目的、内容、方法を理解したときに、生徒は自ら学びたいという気持ちをもてるものと考えている。したがって、指導に当たっては、生徒が自らが学びたいという気持ちをもてるような授業展開の工夫をしなければならないと考えている。

2 「豊かな心」とは

「豊かな心」は「生きる力」の核となるものの一つであり、「豊か」というのはいろいろな心が共生的に存在していることである。そこで、本校の「豊かな心」とは、「他人を思いやる心」、「自然を愛する心」、「感謝する心」の3つを兼ね備えた心ととらえる。

今の世の中、人のことより自分のことばかりを優先するのは子供だけでなく、大人も同じかもしれない。「自己中」という言葉が生まれたのも納得できてしまう。そんな世の中だからこそ、相手を思いやる心を養うことは大切なことの1つと考える。

片品村には、2007年8月30日に日光国立公園から独立した尾瀬国立公園がある。日本百景にも選定されている。そんな片品村の中にある本校の生徒にとって、自然体験の不足が指摘される今日、身近に自然に親しむことができる条件が整っている。文字を通して学ぶだけでなく、様々な直接体験を通して自然を愛する心情を育むことは、よりよい人間形成を図る上で、とても重要なことである。

人と人との関わり合いを深める上で、感謝する言葉は大切です。人は誰かと関わり、助け合いながら生きている。しかし、人と関わっていることや助けられていることにさえ気付かないで過ごしてしまいがちである。また、感謝する心は、人だけでなく、物であったり、自然であったりすることもある。多くのことに素直に感謝できる人であって欲しいと願う。

3 「確かな学力」とは

「確かな学力」とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力であり、「基礎・基本」が確実に身に付いていることが必要である。

「基礎・基本」とは、生徒全員が習得しなければならないものであり、数学の例で考えると応用や発展問題を解く際に必要となる力であると考え。学習指導要領に書かれている内容すべてを「基礎・基本」ととらえる考え方もあるが、もしそうすると、その内容を生徒全員に定着・徹底するには難しいものがあると考え。

学習指導要領は扱う範囲を学年毎に決めており、教科書として1つにまとめている。しかし、1時間1時間の学習のねらいや学習目標などを決めているものではなく、指導内容の精選は指導する教師に任せられている。

そこで、本校が考える「基礎・基本」を以下のようにとらえるものとする。

学習指導要領は扱う範囲は決めているが、学習指導要領に書かれていることが「基礎・基本」ではなく、1時間1時間の指導に直接当たる教師が、その時間で何を生徒に学びとって欲しいのか・何を身に付けて欲しいのかなど、1つまたは2つに絞ったねらい（価値）を「基礎・基本」とする。さらに、単元の導入部や毎時間のはじめに、「基礎・基本」を明確にし、生徒たちにも知らせることによって学習意欲が高まるようにするものとする。

IV 実践の内容

1 道徳教育推進部会

(1) 部会のねらい

本部会は、学校教育目標の3つの具体目標のうちの「豊かな心」に重点を置いて、学校全体で道徳教育に力を入れていくために設置された。

道徳の授業では、具体目標「豊かな心を求め、気づき、考え、実行する生徒」の育成を図るために、自己を見つめたり、道徳的価値の自覚を深めたり、道徳的実践力を主体的に身に付けることを目標とする。

4月に道徳性検査「ニューヒューマン」を実施し、生徒の道徳性の発達水準結果を把握した。その結果を受けて、指導の重点化を図ったり、生徒の日常生活に結びつくように行事と関連させたりして、道徳指導の充実を図るよう努めた。

(2) 実践内容・実践方法

ア 各学級における指導計画（時数）の作成

ヒューマン検査の結果を踏まえて、C判定の生徒が多かったところやA判定の生徒が少なかったところの内容項目の時数を多めにするなど指導計画（時数）を作成した。また、重点化して実施することにより、指導もれの内容項目ができないよう、バランスを心がけて内容項目をやりとげることができるようにした。

イ 指導一覧表の作成

誰もが利用できるようなDVD資料の整理・保管を行う。DVD書庫を造り、各学年・学級で行う道徳の授業の内容項目・題材名を一覧表にし、それらを参考に年間の見通しや授業のヒントを得られるようにした。

ウ 道徳指導案の蓄積

1単位時間の道徳指導案を蓄積する。指導主事要請訪問や一人一授業で実践した道徳の授業の指導案を保管していき、他教師が授業する場合の指導資料として活用できるようにする。

エ 授業の実践

ヒューマン検査の結果と日常の観察から、重きを置く必要のある内容項目を選び、各学年で1つの指導案を検討しながら作成した。また、指導主事訪問の授業参観を通して全体で研修を行うことができた。

(3) 成果と課題

ヒューマン検査の結果を踏まえて、C判定の生徒が多かったところやA判定の生徒が少なかったところの内容項目の授業時数を多めにするなど、各学年の実態に応じて指導計画が作成できた。昨年度の課題であった「情報モラル」に関する内容を実践することや、道徳の資料を誰でも活用しやすいように整理、保管することができた。指導主事訪問や授業の実践を通して、学校目標へ近づく成果を得ることができた。

課題としては、資料を共有できるように教員間で情報交換すること、生徒の発達段階と特性に応じた教材や感動を覚えるような魅力のある教材の開発が必要である。

(4) 授業実践例

1 学年道徳

① めざす生徒像

- ・望ましい生活習慣を身に付け、自己の役割と責任を自覚し、その遂行に努める。

② 具体的な授業展開の工夫

- ・導入段階での発表では、学習の雰囲気や和らげるとともに、自由に意見発表や交流活動が行える雰囲気をつくるために、生徒の発表にあまり深入りしないようにする。
- ・体験的な活動やグループ学習などできるだけ多く取り入れ、お互いの意見交換の活動を重視し、自分自身の考えを振り返り、見つめ直せる授業展開を工夫する。
- ・道徳の時間で学んだことを技術など各教科の導入、展開、まとめのいずれかで効果的に使うようにする。



授業の視点

メールを転送した場合としなかった場合の今後のストーリーをグループで考えさせたことは、情報に対する自分の行動が適切であったかどうかを振り返ることができ、さらに情報を正しく判断していこうとする心情を養うのに有効であったか。

1 本時の学習

- (1) 主題名 よりよい社会の実現 [4-(2)]
- (2) ねらい 電子メールへの対応の仕方を考えさせることにより、中学生として情報を正しく判断していこうとする心情を養う。
- (3) 準備 読み物資料, ワークシート, 画用紙
- (4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	時	指導上の留意点
導入	1, 知識を確認する。 携帯電話でできることを答えてください。	<できること> ・通常の会話・電子メール ・ゲーム・写真を撮る ・音楽のダウンロード	5分	・家庭での経験を思い出させる。 ・自由に意見を発表させる。
展	2, 資料を読み、自分だったらどう行動するか理由を一緒に考え発表する。 あなたなら、メールを送りますか、送るまじませんか?理由も考えてください。	<送る派> ・人の命にはかえられない。 ・緊急だから送る。 ・当たり前のことだから。 <送らない派> ・誰かがやってくれる。 ・面倒くさい。	10分	・今の自分の考えを正直に書くよう促す。 ・発表後、自分の判断は正しかったのか揺さぶる質問を投げかけ、次の活に深まるようにする。
	3, 送る派、送らない派で4~5人のグループに分け、それぞれの判断による今後のストーリーを画用紙に書き発表する。 その判断によって、良い方向、悪い方向に展開するストーリーを考えてください。	<転送する派> 良い例 ・たくさん連絡があり、手術が無事成功し、多くの命が助かった。 悪い例 ・嘘の情報に振り回され、〇〇病院がパニックになった。 <転送しない派> 良い例 ・嘘の情報が広まらず、〇〇病院がパニックにならずにすんだ。 悪い例 ・自分がメールを止めてしまったせいで、多くの命がなくなった。	15分	・グループ分けの際の送る派の生徒が多いため、送らない派が少ない場合にならぬように、授業に参加する。多様な意見が出るよう、教師は送らなければいけないか意見を表明しない。積極的に話し合う。積極的な話をアイスをやる。取りだす。文けではなく、人との関わりで気付けい。
開	4, 自分の考えを振り返る。 色々な発表を聞き、自分の考えはどうなったか。理由を付けて自分の考えを書こう。	・どんなことになっても、やっぱり命に関わるから嘘か本当かわからないが送ると思う。 ・どちらも正しそうなので、しっかり情報を判断していきたいと思った。	15分	・送る、送らない、由振っを最初の見ら時間を与える。

終末	5, まとめ 1つの情報でもたくさんの考えがある。正しい判断力を身につけるためには、普段の生活が重要であり、情報を正しく判断していかうとする態度が必要である。	5分	・情報モラルは、日常のモラルを適用してく事が大切であることを気付かせる。
----	--	----	--------------------------------------

(5) 評価

電子メールの対応の仕方を通して、中学生として自分の判断や行動がより正しいのか 考えていかうとする気持ちをもつことができたか。



2 授業を終えて

本時のねらいは『中学生として情報を正しく判断していく。』ことである。そのために本時では、一つの情報だけで判断してしまいがちな生徒の実態を踏まえ、チェーンメールを題材とした自作資料を用いて授業を行った。

善意のメールのように見受けられるチェーンメールが来たときの自分の判断や行動を考えさせた。その後、グループになりメールを転送した場合としない場合の今後のストーリー展開を意見交流した。しかし、どのグループも同じような内容の展開で終わってしまい、もっと授業のふくらみをもたせられるような補助発問や声かけをする必要があった。各グループの発表を聞き、自分の意見をもう一度理由をつけて考えさせた。生徒が葛藤する中で、一つの情報だけで判断してはいけない心情をもたせられたと思う。

この後の技術・家庭科の授業で、チェーンメールを含めた迷惑メールについての授業を行った。

3 授業研究会から

○展開の工夫について

話し合いが活発で教師の助言も適切であったが、さらに教師の問いかけによって、生徒からもっと意見を引き出せると良かった。活発に意見を述べ、友達の考えを取り入れている様子もうかがえた。教師の話より生徒が深く振り返る展開の方が良かった。机間指導しながら教師の問いかけによって、もっとたくさんのストーリー展開が考えられたり、「分からなくなった」ことにもっと追求できたりすれば、さらに意見や考えを深めることができたのではないかと思う。

自作教材は、生徒が「送る」「送らない」の判断に迷う良い資料だった。それによって話し合いも深められた。

○ねらいについて

生徒が葛藤の中で様々な考えがもててよかった。生徒の意見の変化から内面の変化、考えの深まりが感じられ、揺れ動く生徒の気持ちをよくとらえていた。

正しく判断していこうとする心情を養える授業であった。

○指導主事からの指導助言より

- ・「命の大切さ」「ウソだったら」など生徒なりに自分の考えがもてたと思われる。生徒の心の揺れが感じられた。
- ・「一つの情報だけでは判断しない」というねらいは達成できた。
- ・生徒の実態把握が必要である。チェーンメールを知っていれば、「送らない」という判断で済んでしまう心配があった。ねらいに迫るためにも生徒の実態把握は必要である。
- ・情報モラルを1時間の道徳の時間でやるのは難しい。
- ・ねらいに迫っていくには、生徒から意見が出てくる展開がよい。
- ・自作教材の場合には、ねらいとする価値だけでなく、前後の文章も必要である。「迷ってこうなりました。」「ひろ子さんがこうなりました。」等、主人公の身になって考えさせるようにしたい。そして、自分だったらと考えさせるようにしたい。
- ・本時のねらいは「情報を正しく判断する心情を養う」だが、情報モラルなら情報を判断できればよい。



4 成果と課題

資料を読んだ後の最初の判断では、メールを転送するという生徒が大半だった。しかし、グループで意見交流をし、ストーリー展開を考えさせたことで、どうすればいいのかわからなくなったという生徒が多くなった。これは、各グループで考えたり発表を聞いた中で、いろいろな考えをもつことが必要であり、自分の判断や行動、その後のことについてもよく考えなければいけないという気持ちをもたせることができたと思う。また、情報に対する自分の行動が適切であったかどうかを振り返ることもでき、さらに情報を正しく判断していこうとする心情を養うのにも有効であったと考える。

読み物資料

「緊急メール」

今年、ヒロコは高校生になりました。中学生の時から、携帯電話をせがんでいましたが、高校生になるまでは、携帯電話を我慢すると親と約束をしていました。そして、4月から念願の携帯電話を持つことができました。携帯電話でメールのやり取りや掲示板への書き込み、ブログなどをするようになり、中学時代よりも多くの友人やメル友を持つことができました。ヒロコはすっかり携帯電話を手放せなくなっていました。

休日のある日、ヒロコは家でテレビを見ながらゆっくりと過ごしていました。すると、臨時ニュースがテレビで流れました。それは、自動車の大きな玉突き事故が起き、多くのけが人がでているとのニュースでした。

実際の映像も流れ、多くのけがをした人を心配しながら、友達にこの話題をメールで送ろうとしました。そんなとき、友人から一通のメールが届きました。

件名： 緊急メール 協力をお願いします。 大きな事故が起き、たくさんの被害者がでました。早急に手術をしなければ、危険な状態の人が多数います。たくさんの血液が必要です。協力していただける方は、〇〇総合病院まで連絡をしてください。 この件は、絶対に自分で止めず、周りの友達、家族、親戚の人など、できるだけ多くの人にこのメールを送信してください。 連絡先 〇〇総合病院 TEL△△△△ (〇〇) △△△△ ヒロコは、このメールをどうするべきでしょうか？
--

2 教科指導改善部会

(1) 部会のねらい

①学力分析

到達度テスト（NRT，CRT）を活用し，領域別および観点別に本校生徒の学力分析を行い，授業改善の具体的な方策を立て，実施する。

②授業研究

授業研究を通して，より良い指導方法を考える。一人一授業の研究授業を行い，その都度授業研究会を開催する。時間の都合で授業研究会が開催できない時は，付箋に書いた意見をまとめた用紙，授業感想用紙を全職員に配布する。その成果を日々の授業実践に生かし，主題の達成，教科のねらいの達成を目指す。

(2) 実践内容・実践方法

①学力分析

- ・ 4月にNRT（集団規準準拠検査）を実施した。
- ・ 1学期中に各教科部会で結果の分析を行い，授業改善プランを立て，実践した。
- ・ 1月にCRT（目標規準準拠検査）を実施した。
- ・ 2月にその結果をもとに，実践の評価をした。

②授業実践

- ・ 一人一授業の研究授業・授業研究会を実施した。
（実施日，教科，授業者は「研修の経過」の通り）
- ・ 付箋に書いた意見を集約した用紙を全職員に配布した。
- ・ 授業感想用紙を書いてもらい集約し，授業者に配布した。
- ・ 指導主事訪問，へき地教育授業公開では，指導案検討会や授業研究会を開き，授業改善に取り組んだ。

(3) 成果と課題

①学力分析

- ・ NRTの結果をもとに学力分析の作業に5月から取りかかり，授業改善の具体的な方策を立て，実践できた。
- ・ CRTの分析を年度内に行うことが，実践の評価と次年度以降の課題を明らかにする上で，役立ったと考える。

②授業実践

全職員が1回以上の授業研究を行ったことで，職員の校内研修への関わりが深まり，すべての教科の指導実践を通して，主題の達成に近づくことができたと考えている。本年度の成果と課題は以下の通りである。

【成果】

- ・ 建設的な意見や授業に生かされる助言等が付箋紙に多く見られた。研究授業は刺激

になり、様々な角度から意見交換が行え、日々の指導の充実が図られるという声が多く聞かれた。

【課題】

- ・多忙な中での研究会の開催となるので、開催が少なかった。付箋の集約が放課後までに配布されるので、意見等は伝え合うことができるが、より深まりのある意見交換を行うには、やはり研究会を行う必要性を感じる。
- ・一人一授業の参観者が少ないことがあった。自習課題を用意したり、TTで役割を分担したりして、参観機会、参観時間を増やす工夫が必要である。

(4) 授業実践例

2 学年社会科

①めざす生徒像

社会科の基礎・基本のうち、資料から社会的事象を的確に読み取り、判断し表現できる能力を身に付けさせる。

②具体的な授業展開の工夫

- ・学習内容に関わる絵図・写真・統計資料などを提示したり探させたりする。
- ・資料を読み取り、判断・表現する時間を単元ごとに意図的・計画的に設定し、資料から分かる事実と自分の考えや意見を短く分かりやすくまとめさせる。その際、意見交流を行うなどして、より多面的な内容になるようにする。

実践例

平成22年11月9日 第5校時
2年2組 指導者 馬場 英行

授 業 の 視 点

滋賀県の統計資料から気付いたことを付箋紙を用いてグループで協議させたことは、事例地域（滋賀県南東部）に人口移動が多い原因を考えさせるのに有効であったか。

1 本時の学習

- (1) 単元名 世界と日本の人口 (さまざまな面から見た日本)
- (2) ねらい 事例地域（滋賀県南東部）に人口移動が多い原因を考える。
- (3) 準備 教科書，地図帳，ワークシート，事例地域の資料，付箋紙
- (4) 展開

学 習 活 動	時 間	評価項目 【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
1 「マザーレーク」とは何かを考え、発表する。 ―― 予想される生徒の反応 ――		<ul style="list-style-type: none"> ・マザーレークは住みやすい!? (本時の学習課題) を黒板に提示し、「マザーレーク」とは何かを問う。

<p>・母なる湖・琵琶湖のこと・滋賀県のニックネーム</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・少し間をとって、列指名をする。 ・「マザーレーク」が琵琶湖あるいは滋賀県を指すことを告げる。 	
<p>2 新聞記事の中で滋賀県に該当する部分に下線を引き、発表する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、掲載されている新聞記事を読んで、滋賀県に該当する部分を発表させる。 ・滋賀県は転入超過率全国トップであり、転入してきた人は20～30歳の若者が半分を占めていることを確認する。 	
<p>3 地図帳を開けて「人口増加数ベスト5・人口増加率ベスト5」の町を丸で囲む。</p> <p>4 丸で囲んだこれらの町に共通することは何かをワークシートに書き、発表する。</p> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <p>・全部滋賀県の南部にある。・滋賀県の南部で琵琶湖に近いところにある。・高速道路やJRですぐに大阪や神戸に行ける。・阪神工業地帯が内陸部に伸びているところ。・広い平地になっている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・資料1「人口増加数ベスト5・人口増加率ベスト5」の町を地図帳で確認させる。 ・地図から分かる共通点に着目するよう助言する。 ・生徒の発表を要約して板書する。 ・滋賀県南東部に転入者が集中していること、この地域が京阪神地域とJRや高速道路などの交通網でつながっており、京阪神地域のベッドタウンとなっていることを補足説明する。 	
<p>5 資料2「統計で見る滋賀」を見て、マザーレークに住むことでどんなよいことがあるのかを考え、付箋紙に書く。</p> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <p>①滋賀県に転入者が多い原因を1つも考えられない。</p> <p>②滋賀県に転入者が多い原因を1つ程度考え、記述している。</p> <p>③滋賀県に転入者が多い原因を複数考え、記述している。</p>	34	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2「統計で見る滋賀」と学習活動4を基に、マザーレークに住むことでどんなよいことがあるのかをできるだけ多く書くよう指示する。 ★自分だったらどのような場所に住みたいか、将来のことも考えさせながら統計資料の一つ一つの項目に着目させる。 ☆できるだけ多くの原因を見つけ、その中でも人口移動の主な原因となるものを考える（ランクづけ）よう助言する。 ・永住するにはどのような場所が一番ふさわしいのか、それに該当 	<p>○資料を基に、滋賀県南東部に人口移動が多い原因を考察している。</p> <p>◎資料を基に、滋賀県南東部に人口移動が多い原因を多面的に考察している。</p>
<p>6 各自が見つけた原因を班で話し</p>			<p>【思考・判断】</p>

<p>合い、ランク付けをする。</p> <p>7 班ごとに話し合った結果を全体に発表する。</p>	<p>するものを選択するよう助言する</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋紙は保管しておき、次時以降に活用することを告げる。 	<p>(発言、ワークシート)</p>
---	--	--------------------

2 授業を終えて

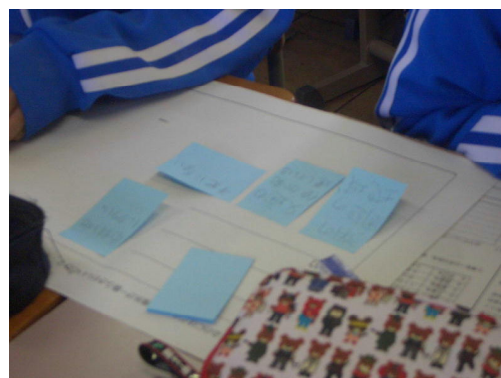
教科書には示されていない事例地域（滋賀県南東部）を過密地域の学習の前に行った理由は、人口増加の原因を具体的にイメージさせるためである。また、本時の学習で考えた人口増加の原因を次時の過密地域の学習、そして過疎地域の学習に生かしていく計画であった。実際、グループ活動の中で、人口増加の原因について多面的にとらえられていた。



↑グループでの協議

3 授業研究会から

生徒たちは良い人間関係の中でなごやかに協議を行っていた。付箋紙を有効に使ってポイントを絞り、前後の時間ともつながりをもった授業だった。ランキング等で生徒の意欲を刺激し活発に意見を交換していた。などの感想をいただいた。指導助言者である小林指導主事からは「個人で考えてからグループで考え、全体で考える流れがあると良い」「与えられた資料から最後は自分の言葉で話せるようになるとよい」などのご指導をいただいた。



↑付箋紙の意見をランキング

4 成果と課題

(1) 成果

- 各学年とも様々な資料を提示し、資料から読み取る学習活動を取り入れることができた。
- 資料から分かる事実を自分の言葉で短く分かりやすく表現できる生徒が徐々に見られるようになった。



↑グループ別に全体の場で意見を発表

(2) 課題

- いまだに半数以上の生徒が、自分の言葉で分かりやすくまとめることができていない。
- 資料から読み取った社会的事象を分かりやすく表現した具体例を教師が示したり、グループ活動の中で友達の表現を参考にさせたりして、指導を重ねていきたい。
- グループや全体での協議の仕方を工夫して、より多面的に生徒の意見を引き出せるようにしたい。

V 研修のまとめと今後の課題

1 研修のまとめ

今年度の本校の校内研修は、「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」という研修主題に沿って研修を進めてきた。本校は、ここ7年間、研修主題を変更せず、前年度までの研修で得られた成果を基に、さらに充実した研修が進められるよう継続研修として取り組んできた。その結果、以下のような成果を得ることができた。

- ・今年度、主題、副主題に使用している用語について、学校としての解釈・意味づけをし、共通理解できたことは大変良かった。
- ・毎月購入しているDVD資料の道徳的指導内容項目・題材名が一覧できる指導一覧表が作成できた。
- ・NRT、CRTの結果を分析し、授業改善の具体策を講じ、効果的に実践を積み重ねることができた。
- ・一人一授業は、普段見ることのできない他の先生方の授業を見る機会となったり、自分の授業を反省・改善したりする上で、とても良い機会であった。
- ・一人一人の教員が、校内研修の実践内容をより充実させるために、各教科の「めざす生徒像」と、それに迫るための「具体的な授業展開の工夫」を明確にもって取り組むと共に、専門教科ではない先生方も含め、いろいろな角度から意見交換が行えたことは大変有意義であった。
- ・外部講師（利根教育事務所指導主事）を招いての授業形式での研修は、とても参考になり、有意義であった。

2 今後の課題

- ・今年度、共通理解できた主題、副主題に使用している用語の意味をいかに日々の授業において意識しながら実践できるか。
- ・次年度のテーマ設定については、今年度の実践を踏まえ、より授業の流れに沿ったものにして行った方が良い。
- ・それぞれの教員が、とても工夫して道徳の指導にあたっている。独自に活用している道徳の指導資料を共有できるような情報交換の場が設定できるとよい。
- ・生徒の発達段階や特性に応じた教材や、感動を覚える魅力ある教材の開発に努める。
- ・深まりのある意見交換を行うには、忙しい中ではあるが授業研究会を持つ必要がある。
- ・毎年の課題であるが、参観する先生が少ない授業があるので、授業をする学年の職員は必ず参観するなど、参観授業への共通理解を図る。